

SAJの会員と学生の意見交換会



ソフトウェア 業界の未来は

高専で意見交換会

函館高専でこのほど、学生約60人とソフトウェア協会（SAJ、田中邦裕会長）の会員約40人の意見交換会が開かれた。就職活動やソフトウェア業界の今後などの課題で議論を交わした。

函館市は、首都圏の企業を中心に市内の学術研究機関や企業の取り組みなどをPRし、マッチングを図って新規取引や販路拡大、企業誘致につなげる「ものづくりシテイセールス事業」を展開。今回は、SAJの視察研修会での来函に合わせ、特別講演の形式で市のプレゼンテーションや意

見交換が行われた。

SAJに加入する企業の経営者が各社の取り組みなどを紹介。「函館からも積極的に自社を受けてほしい」などの要望があった。学生の質問に会員が答える形で意見交換会がスタート。就職活動に向けた準備についての問いには「なるべく多くの人と会話し知見を広げ、自分の意見をしっかりと持つことが大事」などと会員がアドバイスした。会員からも学生側に質問が寄せられ、社内での世代間ギャップを埋める方法への問いには「年代が上の人たちも積極的にSNSやさまざまなメディアに触れてほしい」などと答えていた。

（小杉貴洋）